

傅益瑤 (フ・イーヤオ)

中国近代画壇の巨匠・傅抱石の第五子として生まれる。
南京師範大学(中国古典文学専攻)卒業後、高校の国語教師や南京博物院勤務、
中国絵画史や理論の研究に従事。

1980年 中国教育部派遣国費留学生として日本へ留学。武蔵野美術大学大学院修士課程で
堀出英雄画伯につき日本画を学ぶ。
富士美術館(静岡)にて個展開催。東京藝術大学で平山郁夫画伯に師事。仏教芸術の
神髄を探究するとともに、社寺の障壁画制作を意欲的に行い、横浜市円満寺本堂の
障壁画「比叡山延暦寺図」「天台山国清寺図」二面をはじめ、京都大原三千院の襖絵
「三千院の四季」等多くの作品を精力的に制作。

1990年 社寺障壁画の一連の作品を対象に第二回「倫雅美術奨励賞」を受賞。又、日本の祝祭
文化に深い関心を持ち、全国各地の祭りに足を運び描いた「五彩十二祭」を発表し話題
となる。

1994年 慈覚大師円仁生誕千二百年記念として、比叡山延暦寺に「円仁入唐求法巡礼図」(全二
十五図)を奉納、延暦寺国宝殿に大壁画「仏教東漸図」を制作。

1995年 日本の祭りを描き続けている功績により「神道文化奨励賞」((財)神道文化会)受賞。
NHK教育・趣味百科「水墨画への招待」の講師として出演、好評話題となり全国に名が
知れ渡る。

2000年 ニューヨークのナショナル・アーツ・クラブや国連本部で展覧を開催。

2002年 道元禅師750回大遠忌記念には「祖道傳東図」(全三十六図)を大本山永平寺に奉納
するなど、勇壮華麗な大作を次々と生み出している。

2003年 約6年間に及び月日をかけ、芭蕉の歩いたほとんどの地を訪れて完成させた「芭蕉・奥の
細道を描く=全36図=」のシリーズは話題を呼び、收藏されている仙台のカメイ記念
展示館で公開される。この間、NHKテレビの「夢の美術館《国宝百選》雪舟の旅」など
多くの番組に出演し、また日本国内は勿論、スイス、香港、シンガポール、台湾等で
個展を開催し、国際的な画家として注目される。

2004年 中国北京の国立中国美術館に於て、中国人民対外友好協会創立50周年を記念と
して「傅益瑤画展」が開催された。同時に中国美術館・美術研究会主催により「国際
討論会—傅抱石・傅益瑤の絵画について」が行われた。

7月に銀座松坂屋(東京)で「傅益瑤・奥の細道36景展」、10月には酒田市立美術館
(山形)で「永平寺所蔵傅益瑤墨画作品と寺宝展」を開催。12月には台湾台北・国立国父
記念館「傅抱石百年大展」で「父傅抱石の仕女 画について」と題する記念講演を行った。

2005年 中国景德鎮で染めつけ磁器制作、上海にて個展開催。

2006年 上海辞書出版より『我的東瀛歲月』『我的父親傅抱石』『驚火丹青』『仏教東漸図』(複製)
を出版し、「上海書展」(ブックフェア)に参加出品。同時に記念行事の一環として
「日中文化交流の歴史と現状」と題するシンポジウムをプロデュースし話題となる。

9月には「絵解き菜根譚—108の処世訓」(雄山閣)を出版。

2009年 長野市に於て「傅益瑤・日本の祭絵展」を開催。同時に画集『日本の祭り』(日本祭礼
文化の会)を発行。

2010年 上田市創造館(長野)に於て「傅益瑤・日本の祭絵展」を開催。

2011年 北アルプス展望美術館(池田町立美術館)(長野)、千曲川ハイウェイミュージアム
(長野)にて「傅益瑤・日本の祭絵展」を開催。

2012年 中国芸術研究院研究員となる。
北京に於て中国芸術研究院主催「傅益瑤唐人詩意画展」開催。
東京中国文化センターに於ける日中国交正常化40周年記念「中日祝祭文化の風情を
描く展」(東京中国文化センター・日本祭礼文化の会主催)に参加。

2014年 しもだて美術館(茨城)にて「日本の祭絵展 傅益瑤」を開催。
その他絵画制作、個展、テレビ、ラジオ、講演、出版などに活躍。

(参考:NPO法人日本祭礼文化の会ホームページ掲載略歴)



父・傅抱石と



平山郁夫と敦煌視察



スイスの画家ハンス・エルニのアトリエにて



諏訪御柱祭取材

表紙作品：新居浜太鼓祭り(愛媛県新居浜市) © Fu Yiyao

次回展覧会 2015年11月1日(日)~12月13日(日)

関口雄揮展 (日本画)



アクセス
◆JR松山駅より市内電車にて松山市駅へ、伊予鉄バス北条行き「内宮/バス停」又は「花見橋/バス停」下車 徒歩約10分
◆松山空港より約11km ◆松山I.C.より約16km ◆今治I.C.より約35km

MIURART VILLAGE
MIURART

ミウラート・ヴィレツジ(三浦美術館)

〒799-2651愛媛県松山市堀江町1165-1
TEL089-978-6838 FAX089-978-0323
<http://www.miuraz.co.jp/miurart>
E-mail:miurart@miuraz.co.jp

駐車場: 30台と 休日は臨時駐車場(三浦工業福角
駐車場約250台)をご利用いただけます。

2015年 8月30日(日) → 10月18日(日)

休館日:月・火曜日(祝日は開館) 開館時間:午前9:30~午後5:00(入館は午後4:45まで)
入場料:一般800円(前売り600円)、高大生300円、中学生以下無料
※65歳以上の方は年齢確認ができるものをご提示いただければ一般料金の半額となります。
※障害者手帳をご持参の方はご本人と同伴者1名様まで各料金の半額となります。
主催:ミウラート・ヴィレツジ(三浦美術館)
協賛:株式会社ミウラ
協力:NPO法人日本祭礼文化の会
後援:愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、愛媛新聞社、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、
愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛
関連イベント:傅益瑤氏による講演会「絵で祭りを楽しもう」 2015年9月13日(日) 13:00~14:30
※事前申込不要。入場料のみでご参加いただけます。

MIURART VILLAGE
MIURART

傅益瑤 日本の祭り絵展



傅益瑤 日本の祭り絵展

一千年以上の歴史を持つ祭りが現在も生きている。

日本の祭りは豊かな心と神秘的な魅力がある。

まるで神と人の遊びである様に…。



花巻鹿踊り(岩手県花巻市) © Fu Yiyao



青柏祭(石川県七尾市) © Fu Yiyao



博多祇園山笠 © Fu Yiyao



秋田竿燈(秋田県秋田市) © Fu Yiyao

ミウラート・ヴィレッジでは、「^{フーイーヤオ}傅益瑤 日本の祭り絵展」を開催いたします。

傅益瑤は中国江蘇省南京市に、中国近代画壇の巨匠・傅抱石の第五子として生まれました。「中国画を学ぶ者は古典の素養が不可欠」という父の方針により南京師範大学で古典文学を専攻し、その後は南京博物院で中国絵画史の研究に従事しました。1980年に国費留学生として来日し、武蔵野美術大学で日本画を学び、東京藝術大学で平山郁夫画伯に師事、敦煌壁画の研究を行いました。

独特の文化や習慣を持つ日本の祭りに特に強い関心を抱いた傅益瑤は、各地の祭りを中国伝統の水墨画に日本画の技法を取り入れた独特の画風で描くようになります。今展では特別に愛媛を代表する西条まつり、新居浜太鼓祭りの魅力を傅益瑤の筆に託し、その作品を含め、日本各地の祭りを描いた作品をNPO法人日本祭礼文化の会の御協力を得てご紹介いたします。



那智火祭(和歌山県那智勝浦町) 180cm×273cm © Fu Yiyao



西条まつり(愛媛県西条市) © Fu Yiyao



諏訪大社御柱祭(長野県諏訪市) 180cm×270cm © Fu Yiyao